

2 法王の聖者任命式

4月27日、ヴァチカンのサンピエトロ広場で、ヨハネ23世(1963年没)とヨハネ・パオロ2世(2005年没)の列聖式が行われた。この式には前法王ベネディクト16世も出席し、4人の法王の関連式典となった。もちろん、中心となり、式を取り仕切ったのは現法王である。前日26日より、信者達、特に二人の聖者任命式には、それぞれの出身地イタリアのベルガモ、ポーランドからの信者達を中心にして約100万人の人が集った。ローマでは1度にそれだけの人数を受け入れられない。そのため多くの若者は寝袋を携えて来た。ヴァチカンの周辺の公園、道路は寝袋で埋まった。天気予報は雨だったが、幸いに降らなかった。翌朝6時にサンピエトロ広場が開場したので、多くの人が殺到した。すぐに、サンピエトロ広場、周辺の広場、道はいっぱいになり、その後にやって来た人たちは、スクリーンの設置された、フォロロマーノ通りやチルコマッシモ競技場に行かされた。天気予報では大雨になると言うことだったが、10時少し前にパラパラと降ったのみだ。しかし、何時降り出してもおかしくないような黒い雲、厚い雲で覆われていた。

会場には150人の枢機卿、1,000人の司教、6,000人の司祭が法王の近くを占め、広場からその前の道にかけて20万人の信者達が詰めかけた。さらに周辺の道、広場に散らばり、設けられたスクリーンに見入っていた。さらにテレビ放送局が世界から16局集まり、各国へと放映された。それらを観覧したのは20億人と推定されている。群衆を導き、守ったのは、1万人の軍隊、警察、26,000人のボランティア。各国からの要人は98カ国にのぼり、中にはその国の大統領、首相も出席していた。

時は午前10時14分。アンジェロ・ロンカッリ(ヨハネ23世)、カルロ・ヴォイテューラ(ヨハネ・パオロ2世)の名が読み上げられ、「両者を聖者に任命する」と現法王フランチェスコによって、声高らかに宣言された。その時の大歓声、大怒号は天をも貫くものだった。この2014年4月27日午前10時14分は、日付としても、時としても、歴史の中に刻まれたのだ。

今回の両元法王の列聖式は画期的なことである。今までに何人かの法王が聖者に列聖されているが、ふたりの法王が同時に聖者になったのは初めてである。この二人の法王は表面的には似ていないように見えるが、内面的に見ると非常に似たところがある。二人のイエスを、マリアを思う気持ち、崇める気持ちは絶大だ。特にヨハネ・パオロ2世は「マリアの僕」と言われるぐらいマリア信仰の信奉者だった。マリアを祀った教会、マリアが出現したというルルド、ファティマを始めとして、あちこちに赴いている。それから二人はよく祈ったという。ある時、ある人がヨハネ・パオロ2世の秘書に尋ねたことがある。問：法王は1日どれぐらい祈るのか。答：長い時間祈っているよ。問：長い時間って、5～6時間か。答：いや、寝ている時以外全ての時間だ。という話が残っている。

一番大きい功績は、ヨハネ23世が1962年に「第二ヴァチカン公会議」を開き、ヴァチカンの進行方向を固めたことにあり、それまでのヴァチカンの政策転換に貢献したことだ。そして、方向転換を実行し、実践したのがヨハネ・パオロ2世である。

彼は世界との対話を進めた。共産主義勢力に対抗するためにも多大な功績を残した。

聖者になるにはヴァチカンに規定がある。生前の功績は勿論だが、死後にも問題がある。それは死後二つの奇跡の例が必要となる。これは科学的に証明されなければならない。死後の奇跡については、その確認に困難さがある。ヨハネ・パオロ2世については二つの奇跡が確認されているが、ヨハネ23世の場合には奇跡が一つしか確認されていない。今回は現法王の決断によって、この50年のヴァチカンの進行方向を定めたことで、その業績が認められ聖者になったのだ。現法王は全法王を聖者として列聖したいようだ。

フォコラーレ運動

去る3月17日より20日までの4日間、ローマ郊外のカステル・ガンドルフォの「フォコラーレ運動」の本場で、全員施設に泊まり込んで、世界大会が開かれた。テーマはフォコラーレ運動の創設者キアラ・ルービック女史の6年祭と世界一致運動の促進と協力ということだった。世界各地の32カ国から250名の宗教者、運動の協力者が集まり、盛大に行われた。今までは創設者キアラ・ルービック女史の「一致の運動」の提唱によって、彼女は地球上のあちこちの宗教との一致協力のもと、世界の貧者、弱者を救おうということで、日本やタイ仏教、インドのヒンドゥー教徒、ジャイナ教徒、韓国の道教、イスラエルのユダヤ教徒、アメリカ、アルゼンチンのユダヤ教徒、アメリカ、チュニジア、アルジェリアに居住するイスラム教徒などと個々に運動を展開していたが、今回はそれらの運動を統括しようということだった。

キアラ・ルービック女史は北イタリアのトレント市に1920年1月22日に誕生。彼女の自分のカリスマ性に気づいたのは17歳の時、イタリアのロレートであった。そして、1943年12月7日、キアラは密かに自分の生涯を神に捧げたのだ。この日がフォコラーレ運動の創立日だ。父親は社会主義者、兄は共産主義者だった。しかし、母親は信仰と道徳的正しさを持ち、教会によく通っていた。彼女は第2次世界大戦の時、トレントの町が大爆撃をうけ、多くの犠牲者も出たのを見て、全てはむなしと感じた。その時、戦争によっても壊されない理想があるだろうか考えた。その答が「神」だった。

「神」の姿は「愛」と見抜き、戦争の犠牲者を助け回らなくなった。この運動は、カソリック教会内の一致を深めることにも積極的に努め、第二ヴァチカン公会議でのエキュメニズムの願望が強まる以前から、諸キリスト教会との一致再建、諸宗教者との対話、さらには信仰をもたない人々との対話にも力を入れて来た。

1997年2月28日には、宗教界における功績を讃えるテンプルトン賞が授与された。フォコラーレ運動は、世界的な広がりを見せ、現在では156カ国に及び、8万人を超えるメンバー、150万人の賛同者、数百万人の共鳴者がいる。今でもローマ郊外の本部には、各国から集ったメンバーによって、諸々の計画、立案がなされ、事務処理もなされている。

天理教とフォコラーレ運動との接点は今までに一度だけあつ

(16頁へ続く)

of "thing" and a similitude to "unity of opposites." Eliade noted that modern man's "private myth" as found in Pulakesin can no longer rise to the heights of existential myth. On the other hand, this is what Merleau-Ponty confirmed: taking the metaphysical meaning of this illness (schizophrenia) as the axis to interpret Cezanne. The "religious-historical" horizon before us is expansive, deep, and stygian . . .

Saburo Yagi — The Path Towards Normalization (28) Urban Design for Social Welfare[15]

Given the background of our aging society, facilities installed to meet the particular demands of the disabled are undergoing a transition from barrier free to universal design.

The intent of "fair use by anyone" as found in universal design is not to have everyone make use of disabled facilities, which often may be limited to one facility or restricted physically in some other way.

Universal design is an import from United States, which places value in "fair accessibility." In order to disseminate this thinking in our society, we need to appeal to the society about the original intent of the notion of fair use by anyone. Universal design is to have all parking spaces and restrooms be accessible to people who require wheelchairs. We need to be more vocal about the original meaning of the term "common use" and seek greater awareness of its intent and significance to a wider range of people and thus place more emphasis on improved morals regarding this issue.

(11 頁からの続き)

た。ちょうど2年前、フォコラーレ運動のジェンフェスト（若人の祭典）が、ハンガリーのブタペストで開かれ、12,000人の若人が集ったときだ。天理教もその時正式に招待され、5人が参加した。今回の大会にも天理教者として招待され、参加したが、多くの宗教者が助け合い、「一致」運動を通して世界平和の確立のために協力している姿に感銘した。教服姿で参加した小生に対して、フォコラーレのメンバー、それ以外の宗教の人が興味を抱き、食事の時には、毎回違う人たちが寄って来て、話をし、親しくなった。総じて、皆親切で、穏やかで明るい、温かな人たちであった。最終日には、天理教の説明をしていくということで、教理の基本、歴史的流れを要約して説明したが多くの人が興味を持ってくれたようだ。

新刊案内



《伝道参考シリーズ・XXV》
天理教教理史断章
—地方に所蔵されている教理文書考—

著者 安井幹夫

本書は、2006年から2009年2月までの3年余、『グローバル天理』に連載されたものである。著者の手元にある地方に所蔵されていた、とくに明治期の教理文書を順次紹介、翻刻を試みている。そのうちの38回分をまとめてある。(頒価700円)

『グローバル天理』年間購読のご案内

原則的に新年度は1月号からとなっております。購読料については、送料のみの実費負担です。申し込みは、封書、FAX、メールでお願い致します（お電話での申し込みはご遠慮下さい）。毎月の希望冊数と、氏名（フリガナも）、郵便番号、住所、電話、FAX、E-Mail、職業をお知らせ下さい。申し込み受付後に振込み用紙を送付致します。切手・現金でのお支払いはご遠慮下さいようお願い致します。振込みを確認後、発送させていただきます。

送料（ヤマト運輸メール便）

全国一律、A4（角2）厚さ1cmまで（10冊まで）80円でお届けします。

11冊以降は160円になります。

例 毎月1～10冊購読 80円×12カ月＝960円

毎月11冊～購読 160円×12カ月＝1,920円

問い合わせ先：

〒632-8510 奈良県天理市杣之内町1050

天理大学 おやさと研究所 「グローバル天理」編集部

FAX 0743-63-7255 E-Mail: oyaken@sta.tenri-u.ac.jp

おやさと研究所

「開講 20 周年記念・公開教学講座」のお知らせ

今年度（平成26年度）の公開教学講座は、9月から開講を予定しています。

詳細は本誌次号以降で改めてご案内致しますが、今回は開講20周年を記念して講演会と教学講座に分けて実施する予定です。

記念講演会では二人の講師がそれぞれのテーマに基づいて講演し、教学講座では毎回一つのテーマに基づいて二人の講師が「教理」と「展開」に分けて講演する予定です。とくに「展開」では、実践的で日常のおたすけ場面に寄与できる内容を想定しています。

今回も、多数のみなさまのご来場をお待ちしています。

グローバル天理

第15巻 第6号（通巻174号）

2014（平成26）年6月1日発行

© Oyasato Institute for the Study of Religion
Tenri University

発行者 深谷忠一

編集発行 天理大学 おやさと研究所

〒632-8510 奈良県天理市杣之内町1050

TEL 0743-63-9080

FAX 0743-63-7255

URL <http://www.tenri-u.ac.jp/oyaken/j-home.htm>

E-mail oyaken@sta.tenri-u.ac.jp

印刷 天理時報社

Printed in Japan